

大名美恵子です

東海村村松 2401-2 電話・fax 284-0761

携帯電話 090-3961-8578

E-mail toukai@oona-mieko.info



お詫びと訂正があります。

先週号に「本村の接種は…、東海病院(看護師が接種)以外はすべて医師による接種」と書きましたが、茨城東病院で接種された方から、「東病院も看護師さんの接種だった」と寄せていただきました。失礼いたしました。お詫びして訂正させていただきます。

＜県北学生食料支援プロジェクトからお知らせ＞

食料支援は、「22 日に茨城大学日立キャンパス内、大学生協食堂において実施され、270 名の学生さんが提供を受けられ、大変喜ばれた」とのことです。

「物資等でのご協力をいただきましてありがとうございました」とのお礼の言葉が届けられました。実施のご報告と、プロジェクトからのお礼があったことをお伝えします。

祝

歴史と未来の交流館
開館記念式典



23 日、歴史と未来の交流館開館記念式典がありました。議会への臨席案内が届いていたので、他の議員と一緒に出席をしてきました。



ブランコ座面下が修繕されました

おしのべ子どもの遊び場

「押延子どもの遊び場」に設置されていた滑り台、ブランコ、鉄棒は、法定点検の結果、滑り台と鉄棒が「危険、判定により昨年2月に撤去。一方向ブランコは、座面下のくぼみが進行しつつあり、6月議会で再設置と修繕の方向性について質しました。

この程ブランコ座面下のくぼみの修繕が行われました。滑り台等の再設置に関しては、子どもが増えている状況下、自治会との協議をすすめ、早い時期の設置を求めます。

〔9月5日東海村長選〕

この間の実績と今後の政策を読み解く

今年は、9 月 5 日に東海村長選挙が行われます。同日、茨城県知事選挙も行われますが、いずれも最大争点は、「東海第二原発の再稼働問題への態度がどう示されるか」になると思われます。この間山田村長が示している、村政全般と東海第二原発問題に関する見解について、大変気になる点が多いと感じています。ご一緒に読み解いてみませんか。まずは気になる東海第二原発問題に関する「今後の政策」です。

政策テーマ: **これからの原子力・サイエンス**

まるで東海第二原発は容認？

山田村長 → **科学を生かし、安全に力を入れる** “世界最先端の J-PARC 関連施設や原子力関連施設の成果を村の産業や観光などと連携させ、新規産業の誘致、人材交流や次世代の教育に生かします。東海第二発電所の安全・防災対策の検証と住民への情報公開、必要な対策を推進し、信頼と安心を高めます。”

原子力と観光の連携という事も疑問ですが、今、東海第二原発の再稼働問題については、「来年 12 月の約3カ月前に、新基準に基づく対策工事の最終段階となり、使用前 5 号検査に入るだろう、この検査では原子炉への燃料装荷が行われるだろう」など、多くの住民が、検査で燃料装荷し、そのままなし崩し的に再稼働へ進むのではないかと危惧しています。村長はそうした住民の懸念は知りつつも、上記赤文字のような考え方を示している訳ですが、この考え方は、「東海第二原発が稼働していることが前提」の表現と受け取れます。

つまり、「来年 9 月までには、広域避難計画の策定や、住民の意向把握は終わらせ、再稼働是非判断に入る」、それだけでなく、新協定にもとづく「事前了解のための協議も終わらせる」、など、村長は「再稼働を容認する」姿勢であることを住民に知らせるための表現と受け取れます。